

検査Ⅰ

時間 四十五分

受検上の注意

1. 解答用紙に、受検番号・氏名を記入してください。
2. 声を出して読むはいけません。
3. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。
方法を誤ると得点になりません。
4. 検査終了後、解答用紙を回収します。

「このページに問題はありません」

以下の資料1・資料2を読み、あとの問いに答えなさい。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。）

資料1

「心で見なければ、よく見えてこない。大切なものは目に見えない」以外にもキツネが教える「真実」がもう一つある。

「大切なものは目に見えない」と王子さまは何度も口に出して、すっかり覚えようと思いました。

「君が自分のバラのために失った時間こそが、君のバラをかけがえのないものになっているんだよ」

「ぼくがバラのために失った時間こそが……」と王子さまは何度も言って、すっかり覚えようと思いました。

「人間たちはそういう真実を忘れてしまっているんだ」とキツネは言いました。「でも、君はそれを忘れちゃいけないよ。君が自分でなじみになったものに対して、君はずっと責任があるんだからね。君は君のバラに対して責任があるんだよ……」

「ぼくはぼくのバラに対して責任がある……」と王子さまは何度も言って、すっかり覚えようと思いました。

ここで少々奇異に思われるかもしれない訳語がある。「君が君のために失った時間」および「ぼくがバラのために失った時間」における「失う」である。フランス語原文の「失う」「なくす」「無駄にする」という否定的な意味の *perdre* を、そのまま否定的に「失う」と訳したのである。

「……失った時間こそが、……かけがえのないものになっている」は、否定的な事柄が肯定的な事柄を生みだすふうになって、一見、不適切に見える。「失う」ではなく、「費やす」とすべきであるかのように思われるはずである。「時間を費やし（時間が有効に作用し）だから、大切なものになる」ほうが常識に適っているわけである。ところが、よくよく作者の意図を酌めば、あえて *perdre* という否定的な意味の言葉を使い、常識の逆を示していることがわかる。それは次の*1 転轍手と王子さまの会話に着目すれば、*2 一目瞭然である。

「あの人たちはなにも追いかけてやらないさ」と転轍手は答えました。あの汽車の中で旅客たちは眠っている。さもなければ、あくびをしているのさ。

子どもたちだけが、汽車の窓ガラスに鼻をつぶれるほどくっつけて、外を見ているんだ」

「子どもたちだけが、自分が何を探しているか、分かっているんだね」と王子さまは言いました。「ぼろ切れでできた人形のためにだって、子どもたちは平気で時間を無駄にしてみましょう。おかげで、その人形はとても大切なものになるんだ。だから、人形を取り上げられたりすると、子どもたちは泣いてしまふんだよ……」「子どもたちはいいなあ」と転轍手が言いました。

有効に時間を使ったから、有効性が生まれるという一般常識、いわば〈おとなの論理〉ではなく、無駄に時間を使ったからこそ、かけがえのなさという有効性が生まれるという〈子どもの論理〉を作者は「真実」とし、あえて否定的な意味の動詞 perdre に託たくしているのである。

(『星の王子さま』物語』稲垣直樹による)

【注】 1 転轍手 — 鉄道の線路において、線路を分岐ぶんきさせ、車両の進路選択を操作する人。

2 一目瞭然りょうぜん — 一目見ただけで、はっきりと分かるさま。

資料2

最近出合った言葉の一つで、深く心に残ったものがあります。

「私から年齢を奪わないでください。これは、私が年月をかけてつくった財産なのですから」

こういう、すてきな言葉が出せる人になりたい、また、こういうことがいえるような歳の取り方をしたいものだ、つくづく思ったことでした。

私自身も、実は、かつて次のようなことをメモに書いています。

「時間が、どうしようもなく過ぎた後に、〈老い〉だけが残るといような生き方はしたくない」

どんな時に、何がきっかけとなって、こんなことをメモしたのか、今では覚えていませんが、冒頭の言葉が心に残ったのはこの二つの*1センテンスの間に、何か共通する思いがあるからなのでしょう。④「財産」とみなし、いとおしく思えるような命の過ごし方というのは、決して不幸や苦しみと無縁の人生を指すのではなく、人生で出合う一つひとつのことを、ていねいに、自分らしく受けとめ、自分の〈もの〉としてゆく生き方のことだと思おうのです。

*2ミヒヤエル・エンデは『モモ』という本の中で「人間は、自分の時間をどうするか、自分で決めないといけない」といつています。*3かくて私たちは一生の終わりに、「何と私の人生はつまらないものだったか」と不平をいう権利を持っていないことになります。なぜなら、人生をつまらないものにしたのも、意味あるものにしたのも、すべて自分の責任だったからなのです。

岡山に赴任する前、アメリカの東海岸で修練期を過ごしていた時のことでした。*4修練院の広い庭は、夏ともなれば雑草が我が物顔に生い茂り、私たちの*5格好の作業場となりました。ある日のこと、草取りをしている私たちのところに修練長がいらして、おごそかにおっしゃいました。

「草は根っこから抜くものです。むしっただけでは、またすぐ生えます」

面倒くさそうな面持ちの私たちを見て、続けていわれました。「一本抜く度に、この世から悪の根が一つ、根こそぎなくなりますようにと、祈りながら作業しなさい」

若い修練女たちが、その日の作業を終えた時、庭はいつもと同じく、きれいになっていました。でも何かが違っていたのです。それは修練女たちの過ごした時間の質でした。つまらない草取りの時間は、意味のある時間に変えられ、一人ひとりの財産となったのです。時間の使い方は、かくて命の使い方となります。

「時は金なり」というほどに、時間には、お金を生み出す時間もあれば、お金の*6換算できる時間もありません。このような時間も重要ですが、真に⑥「私の財産」と呼ぶことができる時間は、自分の魂を豊かにするものであり、永遠の世界につながるものを指すものではないかと思うのです。

なぜなら、「一生の終わりに残るものは、我々が集めたものではなくて、我々が与えたものである」からなのです。私たちは、「ただ老いる」だけの日々を送りたくないものです。「ただ働く」だけの日々でもなく、生活の*7随所に愛をこめ、意味を見出し、自分しか作ることのできない〈財産〉としての毎日を過ごしたいと願っています。

(渡辺和子『目に見えないけれど大切なもの』による)

【注】 1 センテンスー文。

2 ミヒヤエル・エンデー ドイツの児童文学作家。

3 かくてー こうして。

4 修練院ー キリスト教カトリック協会のシスターになるための養成所。

5 格好のー ちょうど良い。

6 換算ー 置き換えること。

7 随所ー いたるところ。

〔問題1〕

⑦ あの人たちはなにも追いかけていないとありますが、この表現は資料2で述べられている、どのような生き方にあたりと考えられますか。「生き方」に続くように六〇字以内で答えなさい。

〔問題2〕

⑧ 「財産」とありますが、資料1ではそれはどのように表現されていますか。二〇字程度で説明しなさい。

〔問題3〕

⑨ 「私の財産」と呼ぶことができる時間とありますが、資料1と資料2を参考にしながら、あなたの考える「財産と呼ぶことができる時間」について五百字以上六百字以内で答えなさい。ただし次の条件と、「きまり」にしたがうこと。

条件 次の三段落構成にすること。
さんだんらくこうせい

- ① 第一段落では、資料1と資料2、それぞれの内容にふれて、筆者の考えをまとめること。
- ② 第二段落では、「①」をふまえ、あなたの「財産と呼ぶことができる時間」は何かと、その理由を書くこと。
- ③ 第三段落では、「②」をふまえ、あなたの「財産と呼ぶことができる時間」をどのように大切にしていくなかを書くこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 読点（、）や句点（。）や括弧（「」）もそれぞれ字数に数えます。ただし、や。や「が、行の先頭に來るときには、前の行の最後の字と同じように書きます（ますめの下の書いてもかまいません）。
- 句点（。）と括弧（「」）が続く場合には、同じように書いてもかまいません。この場合（。）で、一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。

〔以下余白〕

